

科学と人のアートによって醸成される、一人ひとりの自律に基づく死生観に裏打ちされた超高齢社会

Science and Humanity for Fostering a Super-aged Society that Respects Individual's Views on Life and Death and Their Autonomy

研究代表者 山川みやえ(医学系研究科 准教授)

研究協力者

[学内] 土岐博(核物理研究センター 名誉教授) 鈴木径一郎(社会技術共創研究センター 特任助教) 木多道宏(工学研究科 教授) 杉田美和(工学研究科 特任准教授) 佐藤真一(人間科学研究科 名誉教授) 吉田美里(医学系研究科老年看護学研究室 特任研究員) 瀬戸ひろえ(人間科学研究科行動統計科学研究室 博士後期課程) 深田悠花(医学研究科保健学専攻 博士前期課程)

[学外] 勝真久美子(なな-る訪問看護ステーション管理者) 鎌田大啓(株式会社TRAPE代表取締役社長) 河上崇陽(Code for Osaka理事、株式会社グルメ杵屋Chief digital officer) 庄瀬寛(一般社団法人シニアライフ協会) 宮崎宏興(NPO法人いぬいぶる理事長) 福村雄一(東大阪プロジェクト代表、司法書士法人福村事務所) 瀧澤一賀(一般社団法人シニアライフ協会) 熊田梨恵(NPO法人パブリックプレス代表理事)

共同研究機関・連携機関

吹田市(福祉部・健康医療部) 豊中市(福祉部) 箕面社会福祉協議会社会福祉法人大阪府社会福祉事業団 東大阪プロジェクト 公益財団法人浅香山病院 NTT PARAVITA 日本電気株式会社(NEC Corporation) パナソニック株式会社 Amame Associate Japan株式会社

1. プロジェクト概要

このプロジェクトは、大阪大学の研究者と地域社会が連携し、個々人の死生観と健康自律を支援する超高齢社会の創生を目指しています。これまでの活動成果やネットワークを活かし、自治体や住民と共に、一人ひとりに寄り添う取り組みを展開しています。今年度で3年目を迎え、超高齢社会を支えるさまざまな活動が充実してきました。その集大成として、「いのちの灯りと共感の経済」と題したワークショップ(写真参照)を開催し、自律と共生が織りなす未来のデザインについて議論し、経済・福

祉・地域社会の専門家と共感を軸にした多様な社会構築や自律支援のあり方を考察しました。

2. 2024年度の取り組み

① 地域共生を促す自治会活動(土岐博)

箕面市の自治会を考える会は、2022年に提言書をまとめ、その後4回の総会を開催しました。2024年6月には「共助でつながる自治会が地域社会の未来をひらく」と題したシンポジウムを実施し、300人以上が参加しました。市役所や社会福祉協議会との共催も大きな成果となり、現在は具体的な課題解決に向けた活動を進めています。

② 個の尊厳を高める終末期ケア(杉田美和)

2024年1月に大阪大学医学部保健学科で「モンテッソーリ認知症ケアワーカー養成コース」を実施し、8月にはモンテッソーリ学会で研究成果を発表しました。国内外から視察や講演の依頼を受け、大阪大学NEC Beyond5G協働研究所の成果をもとに、大阪・関西万博で未来の介護についての展示を行う予定です。

③ 介護の生産性向上の人材育成(鎌田大啓)

メンバーの鎌田氏が率いるTRAPEは2017年から厚生労働省と連携し、介護事業所の可能性を探求しています。オンラインサービス「ソシウェル」を活用し、業務やケアを通じた経験学習を重視した自律的人材の育成を進めています。これにより、介護の現場での価値創出や、職員の主体的な成長を促す環境づくりに取り組んでいます。

超高齢社会のチャレンジングな変化の中で一人ひとりの人生を豊かにするために



て哲学対話の授業を3回実施し、世代を超えた対話の場を広げています。

⑩ 高齢者デジタルデバインドへの取り組み(宮崎宏興)

たつの市の「ご近所デジタルマイスター」が各地でスマホ相談会を実施しました。商業施設や自治会などシニアの生活動線に沿った開催を進め、SNSを活用した見守りの仕組みも試行しました。担い手の希望者が増えているため、次年度は養成講座を開講予定です。

⑪ 生きづらさを抱える女性たちの自律を地域で支える草の根活動(熊田梨恵)

DVや虐待のトラウマを抱えた女性の自助グループを運営しています。専門家の介入なく、当事者同士が安心して体験や思いを共有できる場です。互いに共感し支え合い、役割は固定されません。他者を支える力を見出し、孤立から脱する「居場所」です。池田市内とオンラインで月1回開催しています。

3. 本プロジェクトのこれから

これまでの3年間で、地域共生の促進、自律支援、介護の生産性向上、高齢者の自己実現、死生観の醸成の課題に取り組みました。今後は、これらの実践をさらに発展させ、研究と現場をつなぐ仕組みを強化するとともに地域コミュニティを活用した多世代交流を促進していきます。より多くの人々が共感を軸にした社会を実感できるように多様な立場の人々と協力しながら、持続可能な社会の実現に向けた新たな挑戦を続けてまいります。

④ 地域コミュニティの活性化(木多道宏)

大阪大学の「新たな防災」を軸とした研究の一環として、千里祭りに簡易型DAO(分散型自律組織)を導入しました。参加者はスマートフォンを活用してサイバートロフィーを集め、称号を獲得する仕組みを体験しました。この社会実験を通じて、多様な人々の連携を促進する取り組みを進めています。

⑤ 公共図書館での地域共生(山川みやえ・河上崇陽)

吹田市の健都ライブラリーで、アジアの学生25人とともに多世代交流をテーマにしたワークショップを開催しました。また、堺市立東図書館では「ブックdeトーク」として読書会を開き、認知症をテーマに意見交換を行いました。

⑥ 高齢者の自己実現(深田悠花)

地域の昭和音楽隊と協力し、ダンスを取り入れた音楽コンサートを開催しました。懐かしの歌とダンスを通じた介護予防に取り組み、自治体の依頼で男性限定のダンス講座にも挑戦しました。冗談を交えた交流が生まれ、新たなコミュニティ形成にもつながりました。

⑦ 医療介護の連携と地域ネットワークづくり(福村雄一)

ACP(人生会議)の普及を目的に、地域包括支援センターの研修会で講師を務め、京都信用金庫の複数店舗で終活講座を開催しました。さらに、大阪国際がんセンターと提携し、通院患者向けに終活セミナーを実施する企画を進めています。

⑧ 死生観の醸成(小俣ひふみ・瀧澤一賀)

シニアライフ協会では、①認知症予防、②ACP普及活動、③空き家問題を軸に活動しています。本年度は「913講座」を豊中・箕面で実施し、ゲームを用いた認知症予防の活動を行いました。また、核をテーマにした談話会を開催し、ACPの普及活動では参加者へのインタビューを基に手帳やDVDを配布しました。写真はの様子です。

⑨ 哲学対話(鈴木径一郎)

豊中市、箕面市、伊丹市で地域住民と哲学カフェを継続的に開催しました。さらに、豊中市立庄内さくら学園の小学5年生を対象に「てつがくのじかん」とし

